

農業



令和6年11月号
会誌 No. 1723

目次

巻頭言

BSC工法による国土の強靱化への取り組み……………江口 文陽 3

論壇

脱炭素社会が導く新しい豊かさの創造……………武内 和彦 4

農業懇話会

令和5年度「食料・農業・農村白書」について……………植杉 紀子 6

表彰農家訪問

和牛繁殖経営の放牧への転換

—宮崎県西臼杵郡日之影町に岩田篤徳さんを訪ねて—……………本郷 秀毅 19

食を楽しむ

野菜を伝えることは食べるきっかけをつくること……………牧野 悦子 26

研究の最前線

イベントアトリビューションの最前線……………高橋 千陽 27

—2023年の記録的な高温および大雨を例に—

農業・農村の現場から

2023年産新潟米の1等級比率低下要因と今後の対応……………樋口 泰浩 36

世界の農業は今

COP28の成果と課題……………久保田 泉 42

—エネルギー，農業・食料を中心に—

私の経営と志

福井県南越前町で生花・ドライフラワー生産・販売……………野村 直樹 48
—「ご近所農園」として生きていく—

農家の気持ち

未来に残したい田園風景……………長橋 努 50

統計情報

2023（令和5）年産リンゴの結果樹面積，収穫量および出荷量…………… 51

農政情報

大日本農会だより…………… 53

編集部から…………… 54

表紙写真説明：シリーズ日本農業遺産

蘭島の風景（和歌山県有田川町清水地域）

和歌山県の有田川上流域の地域は、物資調達が困難な「山上の聖地 高野山」において100を超える木造寺院を維持してきた森林育成の仕組みである「高野六木制度」と、平地の少なさを乗り越え、高野山とともに発展してきた、かつらぎ町花園地域における「傾斜地を利用した仏花栽培」、有田川町清水地域における「棚田^{けいはん}の畦畔の農地利用による多様な植物の育成・栽培」を核とした農林業システムが評価され、2021年2月に「聖地 高野山と有田川上流域を結ぶ持続的農林業システム」として日本農業遺産に認定されました。

有田川町清水地域のシンボルである^{あらぎしま}「蘭島」は、1655年頃、山保田組の初代大庄屋であった笠松左太夫によって開発された新田です。有田川に沿って弧状をなす扇形とも表現される棚田の形状と景観は、開拓以来、現在へと継承されてきた人と自然の共生を物語っています。現存する54枚（約2.3ha）の水田は、四季折々に美しく変わる風景が見所で、写真愛好家にも有名なスポットです。

1999年に「日本の棚田百選」に選ばれ、また2013年に「蘭島及び三田・清水の農山村景観」として、国の重要文化的景観に選定されました。

（写真：有田川町商工観光課，文：有田川町清水水行政局産業振興室 二澤 伸悟）